

2021年6月7日

高等教育キーパーソン 各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 558

学士課程教育の評価と質深化 ——

学修者本位の教学マネジメント DX に向けて～そのかたちと見晴らし

～ 学修と教育の成果と評価／システム連動による見える化と律動 ～

【6月29日（火）開催】

ご参画・ご派遣のお願い

近々、定年を迎える半田智久氏の最終講義の事前編として、本セミナーを企画しました。

お茶の水女子大学の教学 IR・教育開発・学修支援センターのサイトに、下記が掲載されています。同サイト責任者の半田氏らしく、オープンマインドの情報公開により貴重な教学システムの労作の紹介となっています。

- 学修状況チェックシステム alagin
 - ・わたしの時間割／履修状況／成績等確認
- ラーニング&スタディ・ポートフォリオ super alagin
 - ・オートスケジュール仕立て／広く公開／触発しあう機能
- web 授業アンケートシステム nigala
 - ・有用で多様な機能の実現／フィードバックの仕組み
- 授業・学習支援システム
- IR 教学評価
- functional GPA

<https://crdeg5.cf.ocha.ac.jp/crdeSite/index.html>

半田氏は昨年9月に「『マスク併用』が映し出す『大学教育の敗北』」を RONZA ウェブ版に寄稿しております。抄要は次の通りです。

—大学教育の仕事を振り返ると、ふたつにおいて敗北した。

ひとつは教育、いまひとつは教育制度。前者としては、大学教育の学校教育に対する負けである。両者ははっきりと違う。学校教育に対して大学での学びは正反対である。いわれたとおりにならないことを身につけることである。

もうひとつの「教育制度」の敗北については、同論考において論展されておられません。本セミナーのテーマ領域は、大学分科会からの「教学マネジメント指針」等の文科政策シナリオと重なります。半田氏の「教育制度の敗北」についてのコメント要点を言及願いたいと存じます。